

都道府県番号	32
都道府県名	島根県

()

該当する観点にチェックをすること

・学校名及び規模

大田市立第二中学校						
	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	137	156	184	4	481	30
生徒数	4	4	5	2	15	

・実践研究の概要

・主題(テーマ)

「学ぶ意欲を高め、確かな学力を培う個に応じた指導はどうすればよいか」

・テーマ設定の趣旨

複雑化・多様化していく変化の激しい社会の中であって、学校教育においては「自ら学ぶ意欲」や「社会の変化に主体的に対応し、自分の力で生きていくことのできる生徒」の育成が求められている。これは、学習指導要領改訂の基本方針の一つともなっており、学習指導要領は、個に応じた指導の充実に努めることにより基礎基本を確実に定着し、それを基に自ら学び、自ら考えるなど21世紀に通用する「生きる力」を育成することを目指している。

本校生徒は、全体的に明るく素直で、興味あることに積極的に取り組むという良さをもっているが、反面やや受動的で他に流されやすい傾向がある。学習についても、一人一人が良いものをもっているものの、概して受け身的である。基礎学力の定着や新しい学力のとらえ方として、知識・理解とともに主体的に取り組む意欲や態度、思考力や判断力・表現力などが重視されているが、本校生徒の実態を見たとき、これらの力が十分身に付いているとはいえない。学ぶ意欲を高め、生涯にわたって学び続けるための基礎となる学力を身に付け、個性の伸長を図る指導の在り方を探ることは、本校にとって重要な課題であると考え。

以上のことから、一人一人の生徒が、学びへの意欲や学ぶ習慣を身につけ、個性や能力を伸ばし、確かな学力を向上させることを目指して本主題を設定した。

・実践研究の内容について

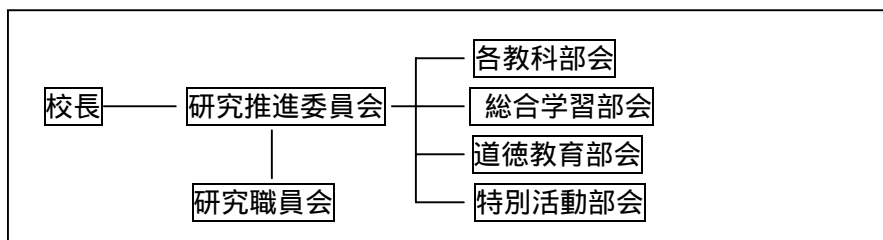
() 研究体制の工夫

研究推進委員会を組織し、原案の作成、検討、方向の修正などをして、研究職員会に提案した。

研究職員会において、研究推進委員会からの提案事項を協議して、共通理解を図

った。

各教科部会，総合学習部会・道徳教育部会，特別活動部会を組織し，定期的に会をもち，共通理解を深めた。特に本年度中心教科とした数学科，英語科においては，週一回打合せの時間を設定し，連携を密にするよう努めた。



() 実践研究の内容

個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善について

ア 数学科での取組

全学年で少人数授業を実施。

第1学年	・ 1学級を等質の2学習集団に編成
第2学年	・ 2学級を等質の3学習集団に編成 ・ 2学期から，生徒の自己選択に基づいて，習熟度別の少人数授業を実施 「基礎コースA」, 「基礎コースB」, 「発展コース」
第3学年	・ 1学級を等質の2学習集団に編成

イ 英語科での取組

第1学年	・ 2学級を等質の3学習集団に編成 (学習集団としての学級の基盤づくりを考慮して，4月は学級ごとの指導を実施。5月から少人数指導を開始)
第2学年	・ 2学級を等質の3学習集団に編成
第3学年	・ 他教科の教員の協力によるT・Tによる実施

3人の英語科教員が Reading・Listening, Writing, Speaking の各技能を分担し，それぞれの技能を重点化した言語活動を取り入れた特設単元を導入し，生徒の意欲の高揚と各技能の定着を図った。

() 成果と課題

【成果】

少人数指導や習熟度別指導は，個に対応するための指導方法として有効であり，真剣に授業に取り組む姿が多く見られるようになってきた。特に指導を必要とする生徒にとって効果的であると思われる。(「集中して勉強しやすい」, 「質問しやすい」などの生徒の声が聞かれた。)

今年度は，数学，英語を中心とした取組であったが，他の教科においても指導方法や指導体制等について話し合い，実践状況を報告し合う中で，実践への共通理解を深めることができた。

教科担当者間での情報交換や意見交換が増え、よりよい授業づくりを目指しての連携が深まりつつある。

【課題】

英語科における習熟度別指導の導入

- ・ 生徒へのガイダンスの充実
- ・ 保護者へのきめ細かな情報提供
- ・ コース別の教材開発

授業規律の一層の確立

() 成果の普及方策

学校だより，地域懇談会を活用しての情報発信

参観日での授業公開

地域の学校への授業公開

() その他

夏季休業を利用して参加希望を募り，補充学習教室を開設した。